

高圧ガス施設検査結果報告書

年 月 日

施設名称		事業所名	
検査期日	年 月 日 ~	年 月 日	所属名及び報告作成者名

I 全般的事項（貯槽に係るものも含む。）

検査項目	異常の有無（有の場合は、補修等の概況）	検査項目	全数	検査個数	補修等の措置数	補修等の概況
施設周囲の状況		安全装置（安全弁・逃し弁）				
防消火設備		安全装置（破裂板）				
保安用不活性ガス・用水・保安電力等		圧力計				
除害設備・保護具等		温度計				
電気設備等（防爆性・接地抵抗等）		液面計				
自動制御装置（インターロック機構等）		ガス漏えい検知警報設備				
導管（敷設状況、保安装置等）		緊急遮断装置				
施設の気密試験		機器の不同沈下等				

* 「導管」の欄は、導管のない場合は構内配管と読み替えること。

* 「検査個数」は、施設ごとの数とする。

II 機器の検査結果

1 総括表：当該施設ごとの全器数について記載する。

機器の種類	① 貯槽 (貯蔵を目的とするもの)	② 反応器	③ 塔 (直立円筒形で①②以外のもの)	④ 槽 (①②③以外の中間槽)	⑤ 熱交換器 (気化、凝縮等を含む。⑥を除く)	⑥ 加熱炉	⑦ 回転機 (圧縮機、ポンプ等)	⑧ その他 ()	⑨ 総計
全器数									
検査を実施した器数									
開放検査をした器数									
異常の認められた器数									
補修等を施した器数									

* 「補修等」とは、溶接補修、取替え、廃棄、運転条件変更、合せ材修理等の措置を示す。

* 「開放検査」とは、機器を開放又は分解して、内部又は外部の欠陥の有無を、非破壊検査（MT、PT等）により確認することを示す。

2 損傷等の一覧（溶接補修、部分取替、廃棄、運転条件変更、合わせ材補修等の措置を施した機器について記載すること。）

(注)	* ¹ 区分の欄は次の記号で記入	T : 特殊反応設備	A : 事業所内の重要度分類上位のもの	R : 前回検査時も補修したもの
	H : 常用温度 200°C以上で水素分圧 0.1 MPa以上のもの	S : 貯槽	N : その他	
	* ² 検査方法は次の記号で記入	V : 内部目視	T : 肉厚測定	M T : 磁気探傷
	U T : 超音波探傷	R T : 放射線透過	P T : 浸透探傷	E T : 漏流探傷
	A E : アコースティックエミッション	X : その他	H T : 耐圧	
	* ³ 異常の内容は次の記号で記入	A : 割れ	B : 腐食減肉	C : 摩耗減肉
	G : 基礎又は支持構造物の不良	H : その他	D : 溶接不良	E : 材料内部欠陥
	* ⁴ 措置方法は次の記号で記入	A : 溶接補修	B : 部分取替え	C : 廃棄
	D : 運転条件変更	E : 合せ材補修	F : その他	
* 補修等をした機器の欠陥発生状況、計算肉厚、実測肉厚、推定原因、補修方法、補修後の検査結果等を別に添付する。				